岡本啓志先生のご逝去を悼む

金沢大学名誉教授岡本啓志（信太郎）先生は，本年9月2日午前6時50分，クモ膜下出血のため，金沢大学付属病院で68歳の御生涯を終えられた。国際地理学会議に出席の予定でおられたが，僅か数日の入院で急逝されるとは，夢にも思いがけないことであった。驚きと悲しみの極みであり，ここに謹んで衷悼の意を捧げるものである。

先生は明治45年京都市に生まれ，京都帝国大学文学部史学科を昭和16年に卒業，助手に残られてひたすら人文地理学の研究を進められた。戦後，助手を辞職し，同志社高校・同志社大学を経て，昭和27年に和歌山大学学芸学部講師に就任，同33年には教授として金沢大学教育学部に赴任され，同53年定年退官されるまで，同学部地理学教室主任を務められた。

さらにこの間，付属養護学校長，付属高等学校長，大学評議員を併任され，教育学部長の要職にもつかれ，金沢大学のために尽瘁された。金沢大学退官後は金沢経済大学教授，星稜女子短期大学学生部長を務められるお元気さであった。

先生は長く教授職に在り，その間上記のような管理職を歴任され，すぐれた教育行政力を発揮された。さらに地元の石川地理学会長を長期にわたって務められ，石川県における地理学の研究と普及，地域振興のためにも貢献された。また歴史地理学会評議員や人文地理学会協議員をも務められ，地理学会の発展にも努力されてきたのである。昭和52年には，石川県下高校の地理担当教官が分担執筆した『石川県の伝統産業』の大著を監修されるなど研究指導に尽くされた。

先生の地理学研究は経済地理学を主体とし，なかでも果樹栽培に情熱を注がれた。和歌山大学時代は柑橘栽培に専念し，田辺市周辺の金柑，有田郡旧田栖村の三宝柑，それに和歌山県下の柑橘栽培の変遷などにつき，いくつもの論文をまとめられた。金沢大学赴任後はリンゴ栽培に移られたが，石川県全域，珠洲市のリンゴ栽培から徳島県・山梨県・群馬県渋川市へと調査を進め，主としてリンゴの小生産地を対象にして，市場遠隔地・温泉観光地・温暖地など特色ある栽培地につき，その生産構造を中心に研究された。その成果は全国大会で発表のうえ，珠玉の論文にまとめられた。

昭和44年には，文部省在外研究員としてアメリカ・ヨーロッパ各地へ果樹栽培をテーマとする研修のため出張された。その後研究は，多忙のなかで石川県下の人口・産業・港湾・城下町など地誌学的な研究へと進展された。

先生は人も知る通り温厚誠実なお人柄で，豊富深遠な学識をもって学生を指導し，教室を運営された。教室内が他からもうらやまれるほど和やかであったのも，一重に先生のご人格の致すところであった。定年後も私共の会合にはよく出席され，いつもと変りなくお元気でおられた。先生のご急逝を悼み，ここに御冥福をお祈りする次第である。

（昭和55年10月19日記す　矢ケ崎孝雄）